

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
a230104	法学	2年	春 (前期)	講義	2	吉良 貴之
授業概要 日本国憲法を中心に、具体的な法律問題を素材にして法学の基本的な考え方を身に付け、社会のなかで生きる存在としての人間とその生活のあり方について考察を深めること。						
到達目標（学修の成果） 法律科目の基本的な思考法を身につけ、時事問題や各自の問題関心について、法的な考え方からよく理解し、述べられるようになること。						
授業計画						
回	表 題	学修内容				
1回	イントロダクション	講義の進め方、到達目標、評価基準などについて説明する。				
2回	学校と法（1）	いじめや学外での私生活の問題など、学校生活で生じる問題を取り上げ、どのような法律問題・人権問題があるかを理解する。（1章）				
3回	学校と法（2）	学校生活のなかで生じる「著作権」の問題について、とくに「音楽」を素材にしながら理解を深める。（1章）				
4回	契約と法	不動産契約を素材にして、「契約」とはどのようなものか、基本的な考え方を理解する。（2章）				
5回	不法行為	身近に起こりうる「不法行為」を題材にして、民事と刑事の考え方の基本的な違いを理解する。（3章）				
6回	裁判員裁判と刑事法	「裁判員」に選ばれた場合を想定しながら、「刑事裁判」の基本的な考え方を理解する。（5章）				
7回	家族と法（1）	「婚姻（結婚）」にかかわる法的な問題を取り上げ、家族をつくることは「法的には」どういうことかを理解する。（4章）				
8回	家族と法（2）	「子ども」にかかわる家族法や社会保障、人権の問題を、具体的な事例を通じて理解する。（6章）				
9回	女性と人権	「女性」にかかわる法律問題のうち、男女雇用機会均等法など、主に労働の場面であられる問題について理解する。				
10回	日本国憲法の仕組み	日本国憲法の構造、立憲主義の基本的な考え方、歴史的な経緯などを理解する。				
11回	精神的自由	基本的人権のうち、精神的自由にかかわるものを取り上げ、基本的な考え方を理解する。				
12回	経済的自由	経済活動にかかわる自由を取り上げ、精神的自由との比較のうえで理解する。				
13回	社会権	生存権や労働権などを中心に、社会権の基本的な考え方を身につけるとともに、身近な事例にあてはめて考えられるようになる。				
14回	統治機構	立法・行政・司法のそれぞれの役割について理解する。				
15回	まとめと復習	これまでの学習内容をまとめ、講義全体を通して一貫した考え方を身につけるようにする。				
準備学修 前半（8回まで）は教科書に準じて講義を進めるので、該当部分をよく予習すること。後半は予習用の教材を指定または配布します。法律や裁判例についての具体的な知識は前提としません。ただし、そのときどきのニュースを素材にして講義を進めることが多いので、新聞やテレビ、インターネットなどのニュースに日頃からこまめに目を通しておいてほしいと思います。						
成績評価の方法・基準 学期末に試験またはレポートを実施し、自分なりの問題関心に応じて、法的なものの考え方を使いこなせるかどうかを問います（50%）。それに加え、授業では毎回、終わりに10分程度の時間をもって小テストを行います（基本的な知識を問うもの。50%）。最終的な成績評価は両者を総合して行います。						
教科書 大村敦志監修、東大大村ゼミ著『ロースクール生と学ぶ 法ってどんなもの？』（岩波書店〔岩波ジュニア新書〕、2009年、840円） 参考書等 渋谷秀樹『憲法への招待』（岩波書店〔岩波新書〕、2001年、798円） ※ 憲法については、各自でわかりやすそうと思ったものを選んでもらってかまいません。						
履修上の注意・学修支援 疑問点がある場合は、授業中や終了後など、いつでも気軽に質問・相談してください。メールでの質問も受け付けます。また、教員ホームページ（ http://jj57010.web.fc2.com ）に授業資料をUPするので、学習に役立ててください。						